

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)

【公開番号】特開 2001-66896 (P2001-66896A)
 【公開日】平成 13 年 3 月 16 日 (2001.3.16)
 【出願番号】特願 2000-173448 (P2000-173448)
 【国際特許分類】

G 0 3 G 15/08 (2006.01)

F 1 6 C 13/00 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/08 5 0 7 A

F 1 6 C 13/00 B

F 1 6 C 13/00 D

F 1 6 C 13/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 7 日 (2007.6.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 5】

剥取り層 9 d の厚さは 0 . 5 ~ 3 m m が使用可能範囲である。剥取り層の厚さが 0 . 5 m m 以下となると、トナーの搬送量が減少してしまうため、所望量のトナーを搬送しづらくなる。また 3 m m 以上となると、剥取り層中にトナーが過多となり、剥取り層の硬度が高くなって、本発明の効果を得られなくなる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 0】

基層 9 b および剥取り層 9 d のゴム材料としては、上記のウレタンゴムの他に、N B R ゴム（ニトリルゴム）、シリコーンゴム、アクリルゴム、ヒドリンゴム、エチレンプロピレンゴム（E P D M ゴム）、クロロプレンゴム、スチレンブタジエンゴム、イソprene ゴム、アクリロニトリルブタジエンゴムおよびこれらの複合混合物など、一般に用いられるゴムが使用可能である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 4】

トナー規制部材としての現像ブレード 1 0 は、前述したように、厚さ約 0 . 1 m m のステンレスの薄板を先端から約 2 m m の位置で折曲形成し、その折曲部を現像ローラ 8 の表面に若干食い込ませた状態で当接配置している。接触圧は線圧で約 1 0 ~ 4 5 g f / c m が好適であり、1 0 g f / c m 以下になると、トナーに対して適切な帯電付与ができず、かぶりとなって画質を低下させる。接触圧が 4 5 g f / c m 以上になると、圧力等により

トナーに混合されている外添剤がトナー表面から剥離しやすくなり、トナーを劣化して、トナーの帯電性を低下させることになる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0080

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0080】

本発明において、非磁性 1 成分トナーは、透過型電子顕微鏡 (TEM) を用いたトナー粒子の断層面観察において、ワックス成分が結着樹脂と相溶しない状態で、実質的に球状および / または紡錘形で島状に分散されていることが好ましい。ワックス成分を上記の如く分散させ、トナー中に内包化させることにより、トナーの劣化や画像形成装置への汚染等を防止することができるので、良好な帯電性が維持され、ドットの再現に優れたトナー画像を長期にわたって形成することが可能となる。また加熱時にはワックス成分が効率よく作用するため、低温定着性と耐オフセット性を満足なものとすることができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0115

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0115】

このように、本実施例では、低温低湿および高温高湿環境下においても、トナーの供給量が従来の場合と比較して安定する。